

I

(1) 下線部の第1文については、文頭の“From”と“move on to”とのつながりを理解したうえで訳出されているかどうか、第2文については、“The better～, the more～.”の構文を押さえた訳がなされているかが、主たるポイントである。第2文についてはさらに、“enrich”が“your own”を目的語とする他動詞であること、また“your own”が“your own lives”であることが理解できているかどうか、重要なポイントである。

(2) ダッシュ（―）に挟まれた挿入部が、“any sudden noise or movement”の具体例であることを明確にして訳す必要がある。また、“any”は「いかなる～でも」、「can frighten birds away」は「鳥を驚かせて逃げ去らせる可能性がある」であるが、いずれかの要素が欠落した曖昧な訳に留まっている答案がみられた。

II

日本語の文章の意味を適切に把握しているか、標準的な英語の文法を用いて訳されているか、語彙が適切で自然に表現されているか、英文の句読法やスペリングが正しいかが主たるポイントである。解答の際には、文章全体で書かれていることは何かを理解し、下線部が全体とどのような関係にあるかを考え、日本語から英語に置き換えようとするのではなく、述べられている内容を簡潔に明瞭な英語で表現するようにするとよい。

(イ) 日本語に特有の主語がほとんどない文を英語に訳する問題である。解答のなかには、1つの文のなかに we, you, they, students, everyone などが混在し、意味が成り立たなくなっているものが多く見られた。一貫した視点で英文を作ることが求められる。「質問に答えるだけなら」の部分を“if only”や“only if”などとして表現しようとしている誤りも多かった。第3文は複雑な文章であるが、「だが、何を問うのか・・・」の部分が第2文との対比であることを理解すれば、表現することができるだろう。また、「着眼、個性、志向」という言葉に対しては様々な表現が見られたが、意味を汲み取れるものであればよしとした。

(ロ) 比較的単純な4つの日本語の文からなる箇所の和文英訳問題である。第1文の日本語は、上で述べられていることが勉強においても当てはまるという意味だが、解答では、上で述べられていることと勉強そのものが同じであるという意味の英文が多く見られた。第3文の解答では、only の位置により、「勉強をしてきた人は質問しかできない」といった、問題文とは異なる意味の英文が頻繁に見られた。

III

1. 下線部の直後に述べられていることの内容を把握し、日本語で分かりやすく具体的に説明することを求める問題である。特に“a word-by-word translation”が、ペルシア語の単語から英語の単語への逐語的な訳という意味であると理解できていることと、筆者が何を言おうとしていたか、そして結果的にどのような表現をしてしまったのかについての日本語による具体的な説明ができていることが重要なポイントである。筆者がペルシア語で話したという誤解にもとづく答案が少なくなかった。

2. 下線部第1文では、「remaining + 形容詞」を適切に訳すことが、文全体を自然な日本語に訳すためのポイントである。“present”を形容詞ではなく名詞として「プレゼンテーション」、「現在」、「プレゼント」と訳したり、“conversation”を「会議」と誤訳する答案が多く見られた。第1文では、文の前半「困難な時間を過ごした/苦勞した」と、理由を示す文の後半（“because”以下）との関係が正しく理解できているかを評価した。第2文では、“gradually”や“particularly”といった副詞を適切に訳すことができているか、“inward”や“passive”といった形容詞について、人の性格・気質を表す表現として適切に訳すことができるかが、ポイントとなる。

3. 解答に際して、下線部(3)の正しい理解に基づき、(i)その結果として著者が取った行動と、(ii)その行動が著者に及ぼした効果、の2点に関して、本文に即して説明する事が求められる。(i)については、“made a practice of ~ing”は「~することを習慣とした」ことを意味する。(ii)については、“simultaneously”を「即座に」としてその修飾関係を誤解したり、“grew more comfortable”の“grew”を「はぐくんだ」とする誤答が散見された。

4. 構文と内容を正しく把握したうえで、文脈に沿った読解、的確な和訳、ならびに語彙力が求められる。以下、3点が採点の主たるポイントである。(i) “bring it up”の“it”の指示内容が前の段落のどの部分であるのかを理解したうえでの訳出、(ii) “after all,”の位置に気を付け、文中でどのような役割を果たしているのかをふまえて、次の部分では何が“obvious”であるのかを的確に理解している、(iii) “to draw attention to something that might be seen as a weakness”の部分では、句動詞の意味や“something”が“that”以下によりどのようなものとして表現されているかを理解している。